

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	198人	社会	197人	数学	198人
	理科	198人	英語	198人		

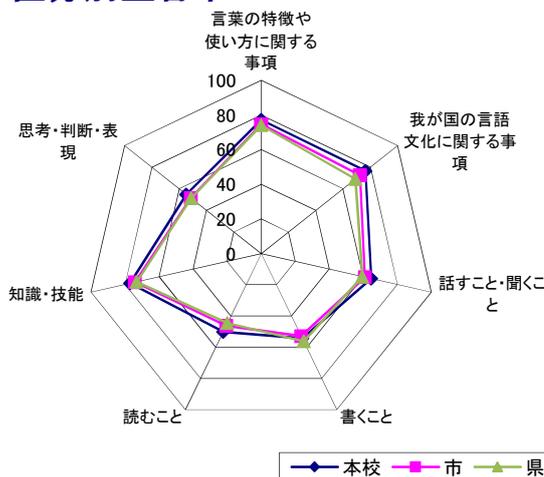
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	77.2	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	76.5	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	64.7	60.9	59.5
	書くこと	54.3	52.8	56.2
	読むこと	50.1	46.2	44.5
観点	知識・技能	77.1	74.2	73.1
	思考・判断・表現	54.8	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

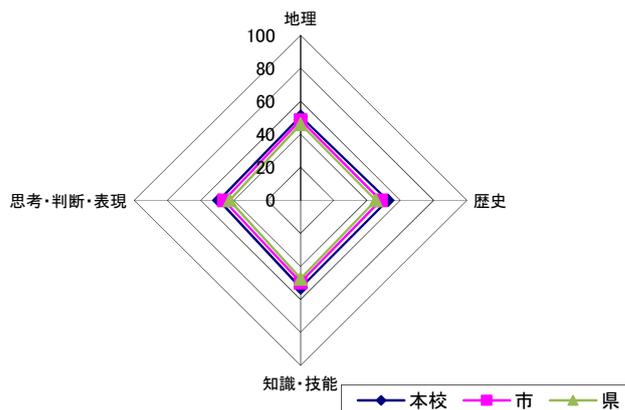
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○正答率は市の平均を2.5ポイント、県の平均を3.1ポイント上回った。 ●漢字に関する設問で、1問のみ市の平均を若干下回った。	漢字の正答率は市平均を上回る字が多かったが、正答率自体が低い字もあった。漢字テスト等を実施し、常用漢字の読み書きが定着するよう指導していく。また、敬語についての正答率がやや低い傾向にあるため、適宜既習事項の確認をしながら授業を展開していく。
我が国の言語文化に関する事項	○正答率は市の平均を4.0ポイント、県の平均を7.4ポイント上回った。	歴史的仮名遣いについては概ね理解しているが、古文に触れる機会が少ないため、各学年で学習する古典文学の中で再度学習の機会を設ける。中学校における古典文学の学習では、文章を読めることが大切なことだということを念頭に置かせ、知的好奇心が高まるような指導をする。
話すこと・聞くこと	○正答率は市の平均を3.8ポイント、県の平均を5.2ポイント上回った。 ●条件に従って話し合いの結論を書く設問で、市の平均を0.9ポイント下回った。	今後の学習では、①話し合いの内容を理解する力②話し合いの内容を理解したうえで自分の考えを明確に表現する力をつけることが必要となる。 会話の展開で要点を捉える力を養うことができる聞き取りの問題や、自分の考えを表現する意見文などを授業の中で行う。
書くこと	●正答率は県の平均を1.9ポイント下回った。4つの設問のうち3つにおいて、県の平均を下回った。	指定された分量や段落構成で、自分の考えを明確にして表現することが全体的に不十分であることが分かる。自分で選択して書くことについては表現できるが、条件が限定される、または内容に合うように表現することが難しい現状である。単元の終末などに、条件作文などの限定された条件下で意見文を書く活動授業で取り入れて指導する。
読むこと	○正答率は市の平均を3.9ポイント、県の平均を5.6ポイント上回った。 ●筆者の考えを説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く設問については、市と県の平均を下回った。 登場人物の考えを説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く設問については、市と県の平均を上回った。	「書くこと」で課題となっている「考えを明確に表現すること」がこの分野にも影響していると言える。登場人物の心情を漠然と捉えることはできるが、それを自分の言葉で表現することが難しい傾向にある。日常的な授業の中で、自分で考え、それを自分の言葉で表現する活動を適宜実践し、他者と交流することで、読み取る力と読み取ったことを表現する力の両面にアプローチしていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	50.8	48.6	46.2
	歴史	52.5	48.3	45.3
観点	知識・技能	53.0	49.8	47.5
	思考・判断・表現	49.0	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

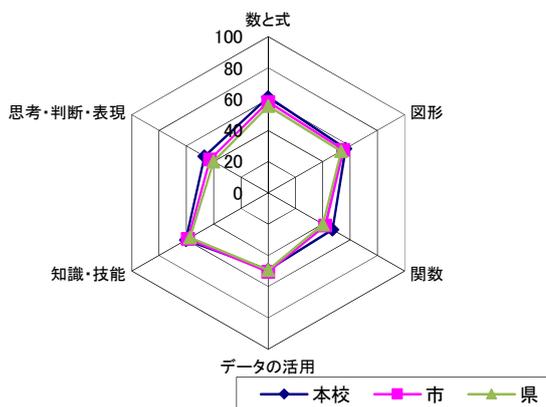
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○県の平均を4.6ポイント上回った。</p> <p>○ほとんどの設問において県平均を上回っており、10ポイント以上上回った設問もある。</p> <p>●気候に関する設問が県の平均を下回っている。</p> <p>●南アフリカ州に関する記述の設問が、県の平均を下回っており、表現力が不十分である。</p>	<p>・AIDリル等を活用し、基礎基本の定着を根気強く図っていく。</p> <p>・授業で資料等を活用して、思考・判断・表現の育成を図っていく。</p>
歴史	<p>○県の平均を7.2ポイント上回った。</p> <p>○全ての設問において県の平均を上回っており、15ポイント以上上回っている設問もある。</p> <p>●武士に関する事柄を古い順に並べ替える設問で、正答率が12.7%だったことから、中世についての理解が不十分である。</p>	<p>・発問や授業構成を工夫し、時代を大局的にとらえ、歴史の流れをつかめるような授業を実践する。</p> <p>・AIDリル等を活用し、基礎基本の定着を根気強く図っていく。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	61.3	58.2	55.5
	図形	56.7	55.1	53.5
	関数	47.1	41.9	40.2
	データの活用	49.2	50.5	49.4
観点	知識・技能	60.4	58.8	57.3
	思考・判断・表現	46.7	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

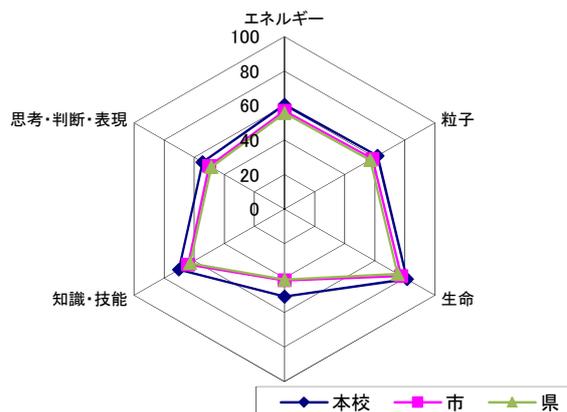
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は市を3.1ポイント、県を5.8ポイント上回った。</p> <p>○与えられた文章題に対して、適切な1次方程式を立式することができるかをみる問題では、市を6.6ポイント、県を13.4ポイント上回った。</p> <p>●与えられた正の数と負の数から答えを求めることができるかをみる問題では、市を2.7ポイント、市を0.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力の向上を図るため、前時の復習や計算を中心とする基本的な問題演習の時間を、授業の最初に設定する。 ・用語の持つ意味などの定着のために、授業の振り返りで、その用語を用いて自分の言葉で書かせるなどの工夫を図る。 ・自分の考えを数学的な用語を用いて表現する場面に授業の中で設定したり、テストに取り入れられたりして記述問題に対する力を向上させる。
図形	<p>正答率は市を1.6ポイント、県を3.2ポイント上回った。</p> <p>○半径が等しいおうぎ形と円の弧の長さについて理解しているかをみる問題では、市を4.5ポイント、県を7.8ポイント上回った。</p> <p>●回転移動したときの回転の角度を理解しているかをみる問題では、市を2.7ポイント、県を0.8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTや模型等を活用し、図形を自ら動かして、図形に対して多面的な見方が身に付くよう指導の工夫をする。 ・生徒の習熟度によって取り組む問題を変更し、個に応じた主体的に学べる場面を設定して活用する力を育む。
関数	<p>正答率は市を5.2ポイント、県を6.9ポイント上回った。</p> <p>○与えられた考えをもとに、その式をかくことができるかをみる問題では、市を9.5ポイント、県を11.3ポイント上回った。</p> <p>●与えられた表をもとに、比例のグラフをかくことができるかをみる問題では、市を1.4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で1年次の学習内容を復習し、学びのつながりを想起させる。 ・日常生活と関連付けた内容のレポート等を作成する学習活動を取り入れ、グラフや表の効果的な活用についても考えさせる。 ・表と式とグラフの相互の関係性を授業内でしっかりと確認し、関数の概念を獲得できるようにする。
データの活用	<p>正答率は市を1.3ポイント、県を0.2ポイント下回った。</p> <p>○ヒストグラムから、その総度数を答えるかどうかをみる問題では、市を3.8ポイント、県を4.3ポイント上回った。</p> <p>●ある階級までの累積度数が大きいヒストグラムを選び、その累積度数を求めることができるかをみる問題では、市を6.0ポイント、県を5.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実力テストの前や後の効果的なタイミングで復習を取り入れ、定着を図っていく。 ・グラフやヒストグラムの特徴から読み取れる状況を説明し合う学習活動を取り入れる。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	60.6	57.0	55.7
	粒子	61.7	58.6	56.9
	生命	81.3	77.5	75.2
	地球	50.7	41.4	40.9
観点	知識・技能	70.2	64.1	62.8
	思考・判断・表現	54.4	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

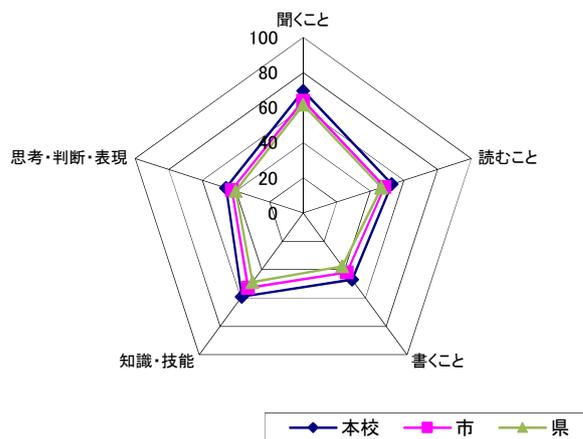
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○音の速さを用いて音源までの距離を計算する問題の正答率は平均を6.1ポイント上回っていた。</p> <p>○ばねののびや入射角の位置に関する問題の正答率はおよそ80%となっていた。</p> <p>●光の反射の道すじに関する問題の正答率は平均を3.7ポイント下回っている。</p>	<p>・実験の基礎的な操作や知識に関しては、約8割の生徒に定着していたので、残り2割の生徒への学び合いを意識して授業を組み立てていく。</p> <p>・全体的に実験の考察に関する部分の正答率が低かったため、レポートの考察への取り組み方や評価の仕方を改善していく。</p>
粒子	<p>○溶解度の変化に関する問題の正答率は、平均を8.9ポイント上回っていた。</p> <p>○気体の集め方に関する問題の正答率は、平均を7.7ポイント上回っていた。</p> <p>●溶液の質量パーセント濃度を計算する問題の正答率は、平均を8.6ポイント下回っていた。</p>	<p>・実際に実験を行った問題に関する正答率は全体的に高かったため、今後もなるべく多くの実験を授業で実施できるようにしていく。</p> <p>・質量パーセント濃度など、比を使って計算することに抵抗がある生徒が多いので、数学科と連携して苦手の克服に取り組んでいく。</p>
生命	<p>○図をもとにゴボウの分類を考える問題の正答率は、平均を8.7ポイント上回っていた。</p> <p>○頭部のつくりの違いから、どんな食性しているのかを関連付ける問題の正答率は、平均を9.2ポイント上回っていた。</p> <p>●脊椎動物と無脊椎動物を分類する問題の正答率は、平均を3.7ポイント下回っていた。</p>	<p>・植物や動物の体のつくりや食べ物の特徴からその分類を考える問題に関しては、かなり定着度が高かったため、実際の写真や動画を用いた指導を継続していく。</p> <p>・無脊椎動物に関する知識が抜けている生徒が多く見られたので、復習をしていく。</p>
地球	<p>○知識・理解に関する問題の正答率は全て平均を大きく上回っていた。</p> <p>●地震のゆれが届くまでの時間と震源からの距離の関係に関する問題の正答率は、平均を0.2ポイント下回っていた。</p> <p>●資料をもとにボーリング調査を行っていない地層を推測する問題の正答率は、平均を2.1ポイント下</p>	<p>・地震の揺れの伝わる速度や時間に関する問題への理解が不足しているため、グラフが表す意味などを確認しながら計算方法を指導していく。</p> <p>・火成岩や堆積岩などの知識を問う問題の正答率が高いので、実物を観察させる授業は継続して行っていく。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	69.6	64.0	61.6
	読むこと	52.7	48.4	46.6
	書くこと	47.1	42.0	37.8
観点	知識・技能	59.1	52.9	48.9
	思考・判断・表現	45.9	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は県を8ポイント、市を5.6ポイント上回った。</p> <p>○日常的な話題について、英文の要点を聞き取り、適切な移動手段を選ぶ問題の正答率が、県を9.7ポイント、市を5.3ポイント上回っている。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ設問の正答率が低い。</p>	<p>・聞くこと、話すことの言語活動で、文法事項についての知識・理解を深める活動だけではなく、考えや気持ちを伝え合う活動(「コミュニケーションを図る活動」)も行い、相手の意図を理解し、適切に応答する力を高める。</p>
読むこと	<p>正答率は県を6.1ポイント、市を4.3ポイント上回った。</p> <p>○対話から必要な情報を読み取り、適切な日付を選ぶ問題の正答率が、県を7.6ポイント、市を4.6ポイント上回った。</p> <p>●英文から必要な情報を読み取る設問の正答率が低い。</p>	<p>・様々な対話文を読んだり聞いたりし、その内容について問答することで、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、必要な情報、概要、要点を捉える力を高める。</p>
書くこと	<p>正答率は県を9.3ポイント、市を5.1ポイント上回った。</p> <p>○与えられた情報に基づいて、三人称単数形の肯定文を正確に書く問題の正答率が、県を15.1ポイント、市を9.7ポイント上回った。</p> <p>●canを用いた否定文を書く問題の正答率が、県を5.6ポイント、市を1.4ポイント下回っている。</p> <p>●日常的话题に関して、自分の考えをまとまりのある文章で書くといった、思考・判断・表現を問う設問の正答率が低く、無回答率も高い。</p>	<p>・書くことの言語活動で、相手に「伝えたい」と思う場面設定したうえでまとまりのある英文を書かせたり、毎時の授業において、表現を豊かにするための単語やフレーズを読んだり書いたりする活動を継続して行うことにより、英文を書くことへの苦手意識を軽減し、流れに沿ってまとまりのある英文を書く力を高める。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習について

○学習塾に通っていない生徒の割合が43.2%で、市を8%、県を10.6%下回っている。子供の学習に対して関心をもっている家庭が多い様子が顕著にうかがえる。

○「家で、学校の授業の予習をしている。」に対する肯定回答の割合が53.9%で、県を11%上回っている。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定回答の割合が64.6%で、県を7.6%上回っている。また、「家の人と学習について話をしている。」に対する肯定回答の割合が85.4%で、県を7.5%上回っている。家の人が学習に関心を持って生徒に接していて、学習内容を考えて家庭学習に取り組む習慣が身に付いていることが、学習の成果に結びついている。この取り組みを広げていくためにも、頑張っている生徒の取り組みを周囲の生徒に広める手立てを講じていく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に対する肯定回答の割合が41.7%で、県を2.0%下回っている。各教科の時間だけでなく、学活・道徳・総合的な学習の時間でも話し合いや発表の活動を積極的に設け、発表に対する抵抗感をなくしていくことが課題である。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」に対する肯定回答の割合が66.0%で、県を5.5%下回っている。生徒が質問しやすい雰囲気を作るために、授業中だけでなく休み時間等も生徒との良好な関係をつくるための声掛けを学校を上げて図っていくことが求められる。

生活(生徒自身)について

○「将来の夢や目標をもっている。」に対する肯定回答の割合が75.7%で、県を5.9%上回っている。実現に向けてより具体的な努力ができるように支援していきたい。

○「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などをみたり、聞いたりしますか。」に対する2時間以上と回答した割合は49.1%で、県を10.3%下回っている。また、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。」に対する2時間以上と回答した割合は33%で、県を16%下回っている。家庭で生活の約束を決めて、それを守っている生徒が多いことがうかがえる。今後、受験に向けた学習時間の増加を見越して、さらに時間の使い方について考える機会を設けていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
全学年で統一した自主学習の実施	・自主学習ノートの使い方や取り組む内容などについて全学年同一步調で行っている。 ・提出されたノートの確認について担任だけでなく、副担任、主任の先生も入り、複	・「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定回答の割合が64.6%で、県を7.6%上回っている。 ・「家で学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答の割合が42.7%で、県を7.8%上回って

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「友達の前で自分の意見や考えを発表するのは得意である」という質問に対して肯定的回答をした生徒が41.7%で、県、市の平均と同程度であるが、6割近い生徒が自分の意見を発表することに抵抗感を持っている	心理的安全性の構築と話の聞き方、論の進め方の再確認を行う。	・教室内の心理的安全性を高めるために、学級活動などでエンカウンターを実施する。 ・国語科の授業を軸として、話の聞き方、論の進め方についての基本的事項について、適宜確認する。